記　者　発　表

令和８年　１月２６日
国　土　交　通　省
東 北 技 術 事 務 所

応急組立橋の架設訓練を実施します
～災害時の輸送経路確保のために～

東北技術事務所では、東日本大震災の経験から導入した応急組立橋について、架設訓練の関係者向け見学会を開催します。

「応急組立橋」は、地震および洪水等により被災した道路や橋梁に代わり、現地で組立出来る仮設橋で、緊急車両や災害対策車等の輸送路を確保する重要な役割を担っています。

架設訓練は、応急組立橋の出動に備えて訓練の実施と合わせ、架設時に不具合が無いか点検・確認を行うものです。

１．日　時：令和８年　２月１７日（火）１３：３０～１４：３０

※架設後の組立点検・目視点検を予定しています。
なお、点検に使用する応急組立橋は、東日本大震災の経験を踏まえ、緊急車両を早急に通行させるべく平成２４年度に導入したものです。（別紙－１）

２．場　所：東北技術事務所構内（別紙－２）

※1 見学を希望される方はヘルメットを準備しますので、問い合わせ先まで連絡をお願いします。
※2 天候により中止とさせていただく場合があります。

発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会

問い合わせ先
国土交通省　東北技術事務所
住　所：多賀城市桜木三丁目６－１
ＴＥＬ：０２２－３６５－８１５８（代表）
副所長（機械）　佐藤（さとう）　英樹（ひでき）
防災・技術課長　亀田（かめた）　誠（まこと）

別紙－１

応急組立橋

ポニーワーレントラス橋40m×6．5m

～応急組立橋の概要～

台風等による橋梁の損壊、地震による道路崩壊などに、道路機能の復旧用仮橋として配備されています。

～応急組立橋の特徴～

◆主構の各パネルは、中間が４ｍ×２・８ｍ×２、端部が８ｍのパネルで構成されており、最小１６ｍから４ｍごとに、４０ｍまで架設可能です。

◆設計荷重は「道路橋示方書」のB活荷重（２５ｔ）によっています。

◆車道幅員が６．５ｍと対面１車線の2車線走行が可能。

◆１．５ｍ幅の歩道も取付可能　※ 今回の訓練では対象外。

◆覆工板にすべり止め舗装を施し安全性を向上させています。



右は見学会の様子

～見学会について～

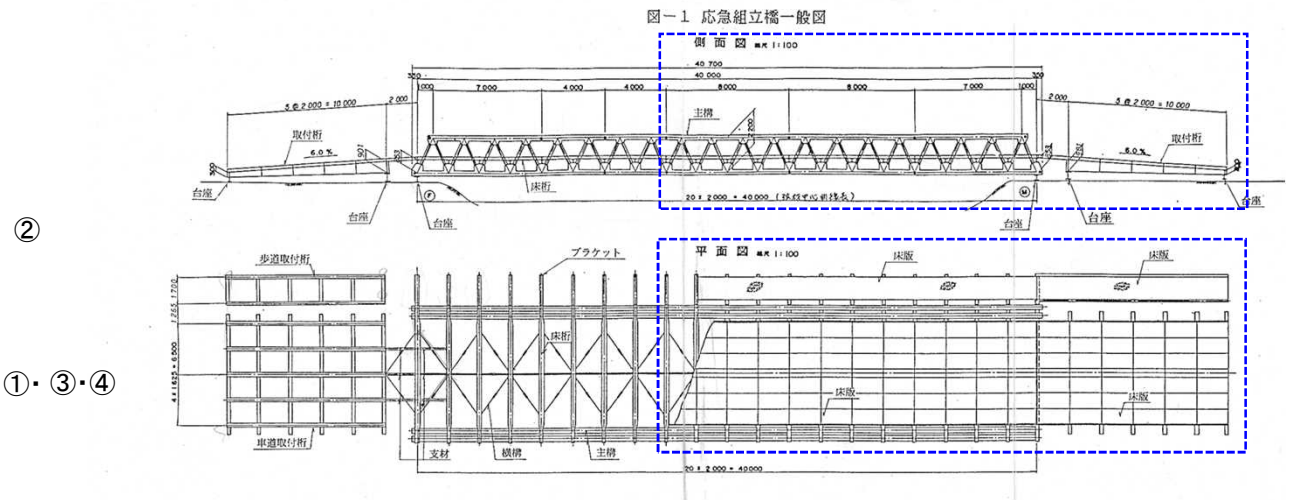
今回の架設点検は、本橋４０ｍのうち本橋２４ｍ･スロープ１２ｍ両側･ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ

見学会作業内容（予定）

片側スロープ及び両側主構が取付けられ、
床組みが設置した状態でスタート

① 覆工板敷設　【約１５分】
② 取付桁(ｽﾛｰﾌﾟ)架設　【約２０分】
③ ガードレール設置　【約１５分】
④ 組立点検　【約１０分】

図－１ 応急組立橋一般図

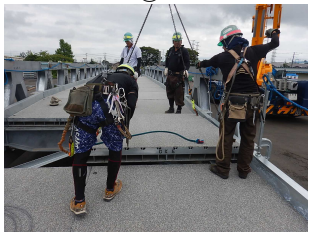


②

①・③・④

※イメージ

①



③



④ 完成



東北地方整備局　東北技術事務所

防災・技術課長　亀田　宛

申込先　　kameta-m82ac@mlit.go.jp

取材申込書（2／17 応急組立橋架設訓練見学会）

取材を希望する場合は、この様式により、下記連絡先までメールでお申し込み下さい。
申し込み締め切りは、令和8年　2月12日（木）17時です。

所属記者会（所属する記者会に〇をつけて下さい）
・宮城県政記者会　・東北電力記者会　・東北専門記者会　・その他
会社名及び部署名
取材者　役職・氏名・連絡先（全員の役職・氏名を記載願います）
①（代表者）
②
③
連絡先（代表者の連絡先）

上記のとおり、取材を申込ます。

注意事項

1．当日取材を希望される方は、東北技術事務所　防災・技術課長　亀田までメールにて申込を

2．取材受付にあたっては、事前申し込みを確認させていただきます。

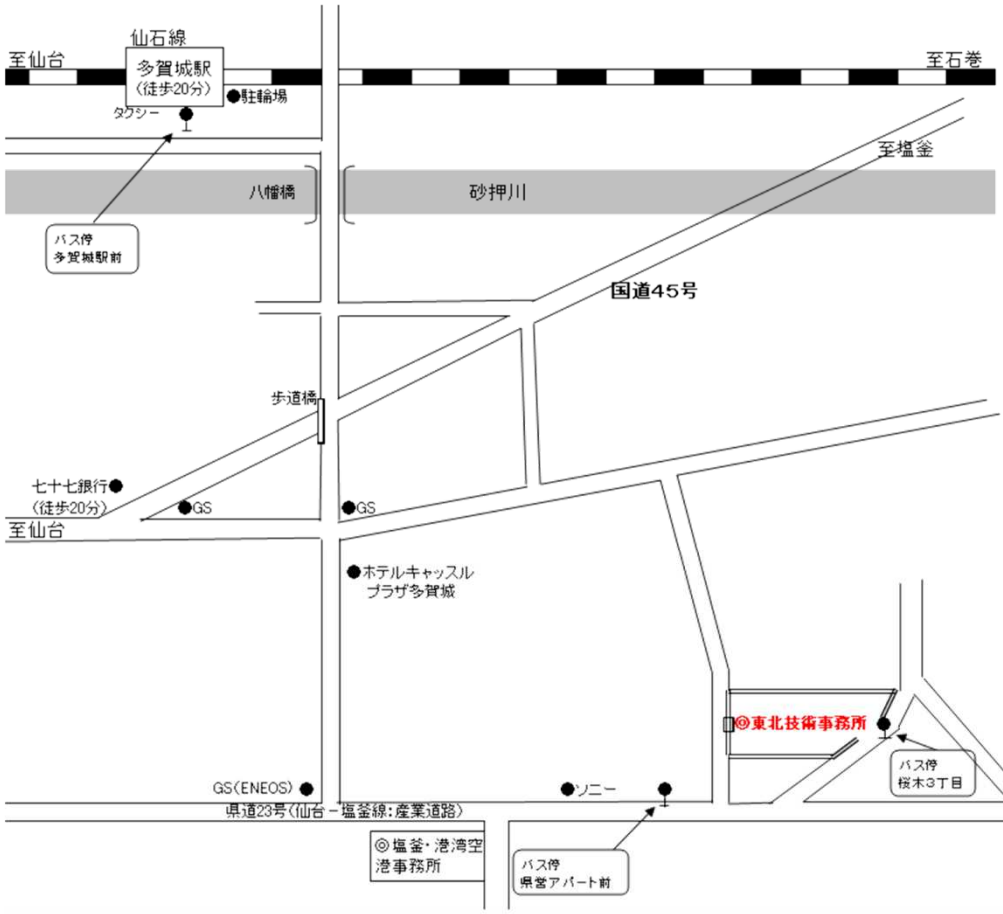
3．取材にあたっては、担当者の指示に従ってくださるようお願いいたします。

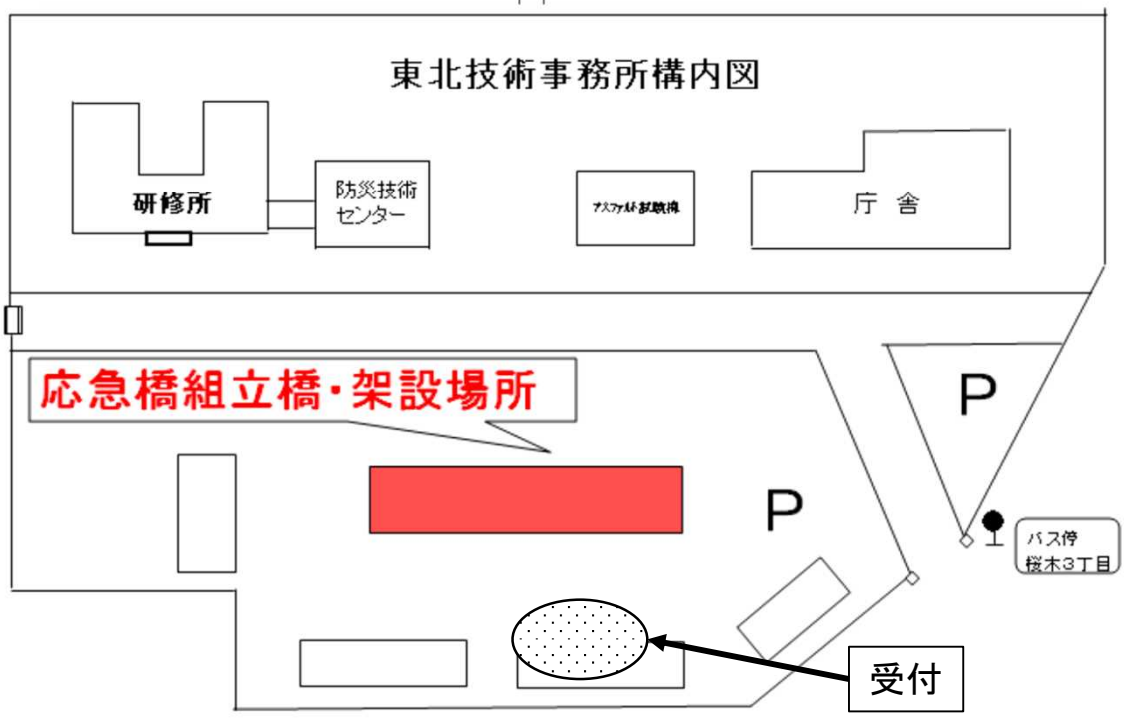
別紙－2

交通アクセス

・JR仙石線の多賀城駅から徒歩20分、車で10分

・バスは宮城交通七ヶ浜方面乗車、桜木三丁目下車徒歩3分。





東北技術事務所構内図

応急組立橋架設点検の見学



応急組立橋完成イメージ



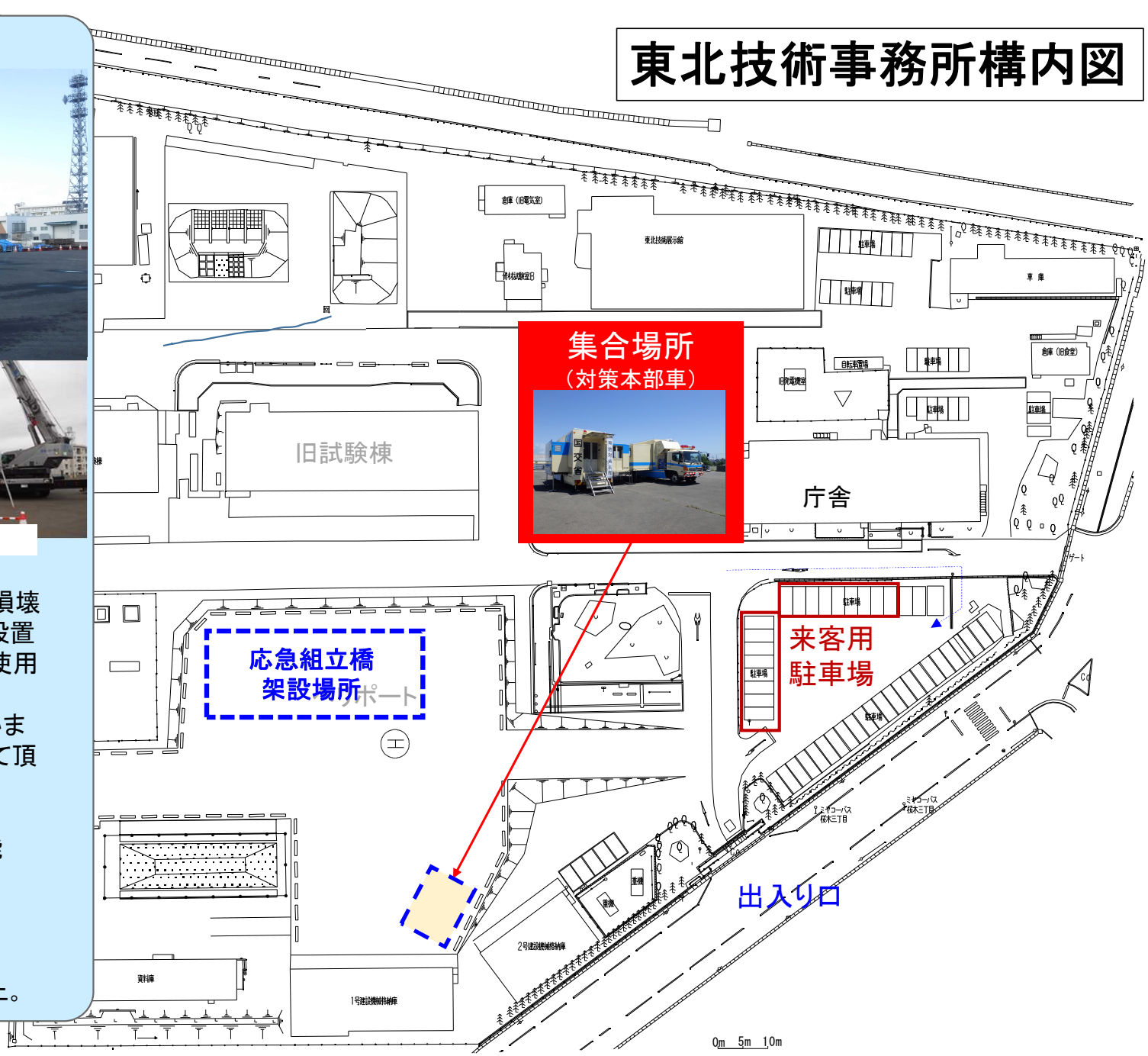
主構吊り込み状況



床桁吊り込み状況

■応急組立橋は、台風や地震によって損壊した橋梁や道路の代わりに、応急的に設置して緊急の輸送路や工事用道路として使用する橋梁です。
■応急組立橋の架設点検を構内で行いますので、架設点検の作業状況を見学して頂きます。
■応急組立橋（2車線橋）の特長
・16mから40mまで4m単位で設置が可能
・大型車両も走行が可能
・2車線用の車道と歩道の設置が可能

※応急組立橋（2車線橋）を対象。
※災害対応の必要が生じた場合は、見学中止。



■開催日時／ 令和8年2月17日（火） 13:30 ～14:30 （集合時間: 13:00）
■集合場所／ 東北技術事務所構内 ヘリポート付近